

B R I C s を中心に広がる F T A の波

～ 07 年から 09 年の世界 F T A 成立件数は 58 件に達する見込み～

2007年 3月22日 (木)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

1990年代以降、世界規模で自由貿易協定 (F T A) の締結がブームになっている。それまでの自由貿易の流れは、W T O (世界貿易機関)のもと、加盟国全体で関税の引き下げなどを協議していくことが主流であったが、次第に各国の利害関係が複雑に対立するようになり、合意の形成が難しくなっていく。現在、W T O の新ラウンドの交渉は中断している。このため、世界各国は、先進国・途上国を問わず 2 国間で個別に合意できる F T A を次第に重視するようになった。実際、世界の F T A 件数は、90年代以降急増しており、2006年 6月15日現在で F T A は累計148件にも及ぶ。

2 国間・複数国間の F T A は貿易・投資の相互促進を通じて参加国の経済を活性化・効率化させる効果がある。たとえば、F T A の先駆的成功事例のひとつとして、中南米のメルコスール (Mercosur = 南米南部共同体市場) が挙げられる。メルコスールは、域内貿易・直接投資の拡大などを通じて、加盟国の経済にプラスの効果をもたらしたといわれる。

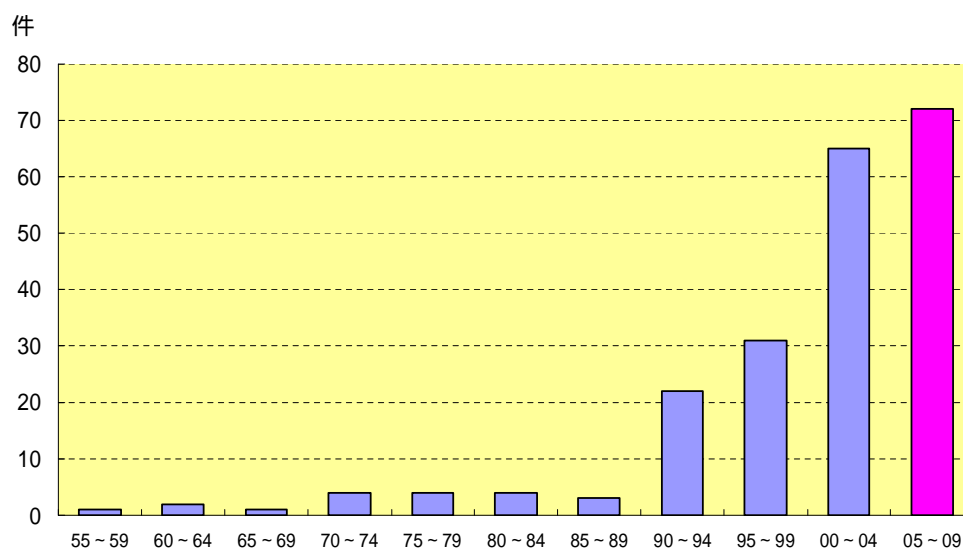
また最近では、2004年 9月にインドとタイの 2 国間で F T A が発効したが、F T A を追い風にして、両国の貿易・投資活動が活発化し始めている。貿易面では、自動車部品の関税率が50%引き下げられたことで、タイからインドへの自動車部品輸出が急増している。タイ側の統計によると、2005年の対印輸出額は前年比67.7%も増加した。輸出関数を使って試算すると、2004年の対印輸出額の15.1%、2005年の対印輸出額の40.1%は F T A の効果によって生じたものだ。これまでタイは対インドで貿易赤字を記録していたが、F T A 締結後の2005年は輸出の増加によって貿易黒字に転じた。タイ政府は、F T A の効果によって、今後タイのインド向け輸出が現状の 2 倍以上に膨らむと予想している。日本の自動車メーカーも、自動車部品をタイでつくり、それを輸出してインド国内で組み立てるというかたちで、タイ印両国の F T A 締結の恩恵を受けている。

世界の自由貿易化は、2007年から2009年にかけても、W T O ではなく F T A を中心に進んでいく可能性が高い。筆者の予測では、2005年から09年までの F T A 件数は全世界で72件と過去最高水準になる見通しだ。そのうち、07年から09年にかけては58件の F T A 成立が予想される (05年から06年は14件)。それらのなかには、E U (欧州連合)とインド、E U と韓国、E U と A S E A N などの案件が含まれる。すでに E U は、2006年12月 6日にインド、韓国、A S E A N (東南アジア諸国連合)と F T A の交渉に入ることを決めている。また、F T A の成立件数予測のなかには、現在交渉中の日本と韓国、日本とオーストラリアなどの案件も含む。

(WTOからFTAへ)

1990年代以降、世界規模で自由貿易協定（FTA）の締結がブームになっている。FTAとは、締結国間で輸出入にかかる関税や数量制限などを撤廃し、自由に輸出や輸入ができるようにすることだ。それまでの自由貿易の流れは、WTO（世界貿易機関）のもと、加盟国全体で関税の引き下げなどを協議していくことが主流であったが、次第に各国の利害関係が複雑に対立するようになり、合意の形成が難しくなっていた。現在、WTOの新ラウンドの交渉は中断している。このため、世界各国は、先進国・途上国を問わず2国間で個別に合意できるFTAを次第に重視するようになったのである。実際、世界のFTA件数は、90年代以降急増しており、2006年6月15日現在でFTAは累計148件にも及ぶ（図表）。

図表 世界のFTA件数の推移



（出所）JETRO 資料より作成。05年から09年は06年9月までの実績をもとにしたBRICS経済研究所の予測値。

(FTAの恩恵を受ける新興国)

2国間・複数国間のFTAは貿易・投資の相互促進を通じて参加国の経済を活性化・効率化させる効果がある。たとえば、FTAの先駆的成功事例のひとつとして、中南米のメルコスール（Mercosur = 南米南部共同体市場）が挙げられる。メルコスールは、域内貿易・直接投資の拡大などを通じて、加盟国の経済にプラスの効果をもたらしたといわれる。たとえば、メルコスール発足前の80年代と発足後の90年代以降の加盟国の平均成長率を比較すると、アルゼンチンが0.92%減から3.27%増へ、ブラジルが2.33%増から2.55%増へ、ウルグアイが1.15%増から2.23%増へと高まった。経済規模の小さいパラグアイは、ブラジルやアルゼンチンからの輸出攻勢を受けて貿易収支が悪化したため、加盟国のなかで唯一成長率が鈍化した。メルコスールの平均成長率は1.58%増から2.70%増へと高まっており、加盟国トータルでみれば、経済成長にプラスの効果があったといえる。

また最近では、2004年9月にインドとタイの2国間でFTAが発効したが、FTAを追い風にして、両国の貿易・投資活動が活発化し始めている。貿易面では、自動車部品の関税率が50%引き下げられたことで、タイからインドへの自動車部品輸出が急増している。タイ側の統計によると、2005

年の対印輸出額は前年比 67.7%も増加した。輸出関数を使って試算すると、2004 年の対印輸出額の 15.1%、2005 年の対印輸出額の 40.1%は F T A の効果によって生じたものだ。これまでタイは対インドで貿易赤字を記録していたが、F T A 締結後の 2005 年は輸出の増加によって貿易黒字に転じた。タイ政府は、F T A の効果によって、今後タイのインド向け輸出が現状の 2 倍以上に膨らむと予想している。日本の自動車メーカーも、自動車部品をタイでつくり、それを輸出してインド国内で組み立てるというかたちで、タイ印両国の F T A 締結の恩恵を受けている。

(07 年から 09 年にかけて 58 件の F T A が成立する見込み)

世界の自由貿易化は、2007 年から 2009 年にかけても、W T O ではなく F T A を中心に進んでいく可能性が高い。筆者の予測では、2005 年から 09 年までの F T A 件数は全世界で 72 件と過去最高水準になる見通しだ(前掲図表)。そのうち、07 年から 09 年にかけては 58 件の F T A 成立が予想される(05 年から 06 年は 14 件)。それらのなかには、E U (欧州連合)とインド、E U と韓国、E U と A S E A N などの案件が含まれる。すでに E U は、2006 年 12 月 6 日にインド、韓国、A S E A N (東南アジア諸国連合)と F T A の交渉に入ることを決めている。また、F T A の成立件数予測のなかには、現在交渉中の日本と韓国、日本とオーストラリアなどの案件も含む。日本が韓国と F T A を締結すれば、韓国向けの中間財、機械製品の輸出増が見込まれる。また、オーストラリアは鉄鉱石や石炭などに恵まれた資源大国であるため、国内で消費する資源の多くを輸入に頼る日本にとって、同国との F T A 締結によるプラスの効果は大きいといえよう。

こうした流れのなか、F T A の交渉・締結の波に乗り遅れた国は、貿易面でのメリットを享受することができなくなってしまう。現状の日本は、アジア地域を中心に様々な国との F T A 交渉に乗り出しているが、農業問題などが障害となって交渉の進捗は遅れている。

今後、日本は、米国に偏った経済関係のリスクを分散するうえでも、F T A を重視した自由貿易戦略を進めていく必要があるだろう。